

海外渡航者や外国人患者を診療するための医療機関向け研修会講演

変わりゆく感染症リスクにどう備えるか

～輸入感染症の最新動向と医療現場におけるポイント～

がん・感染症センター 都立駒込病院

感染症科 部長 今村顕史

日本の年間渡航者数(2025年)

訪日外国人旅行者数 4268万人

出国日本人数 1473万人

2017年に富山で発生した事例

外国籍の20代女性

9月13日、成田空港に入国

10月1日、発熱と発疹が出現

10月5日、富山市内の医療機関を受診

10月6日、麻しんウイルス検査にて陽性

9/13 成田空港

9/13～15 宮城

9/15～17 青森

9/18～26 群馬

9/26～27 東京

9/27～29 新潟

9/30 東京

10/1 愛知

10/2 奈良・京都

10/3～5 福井

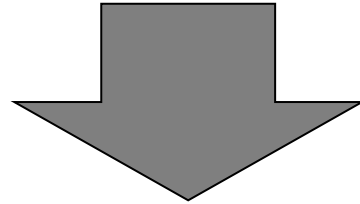
10/5 富山

10/5～ 宮城



2015年3月27日

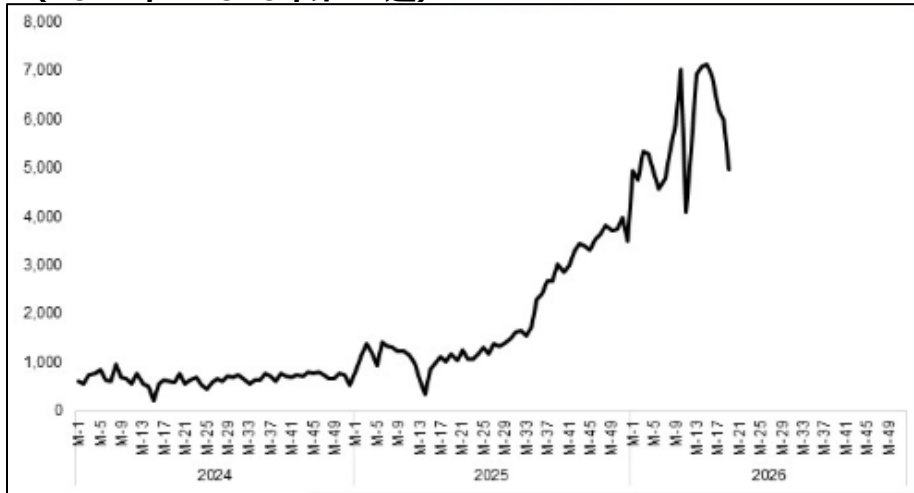
麻疹が**排除状態**に！



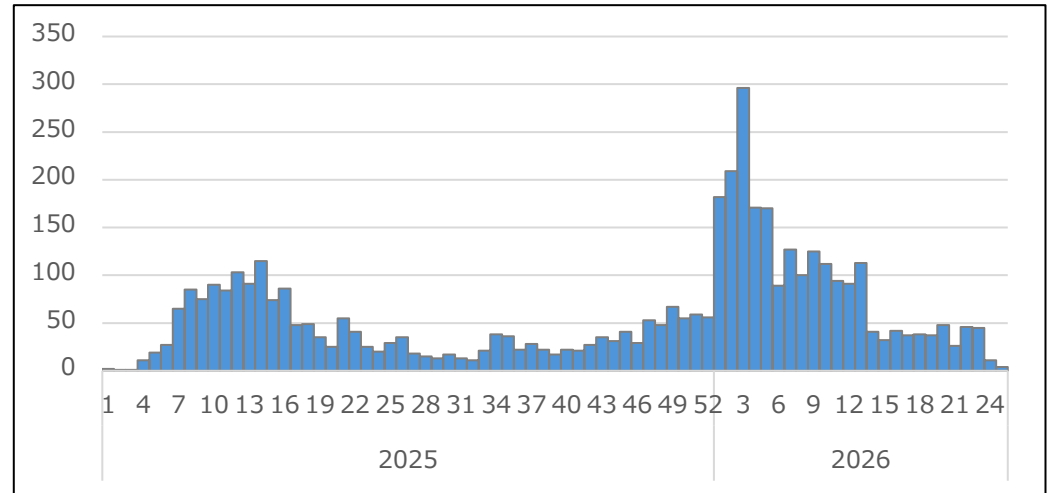
今の麻疹は**輸入感染**

麻疹 - インドネシアおよびアメリカにおける発生状況 -

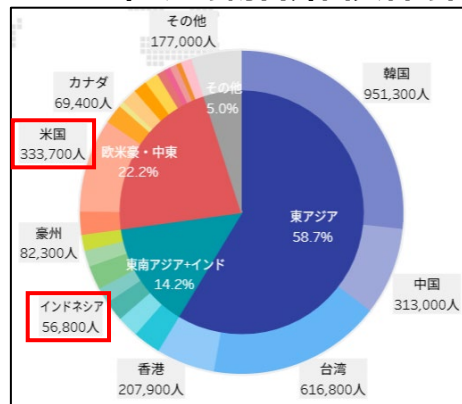
インドネシアにおける麻疹疑い例の報告数の推移
(2024年～2026年第21週)



アメリカにおける麻疹報告数の推移
(2025年第1週～2026年第25週)



2026年5月の訪日外国人客の内訳

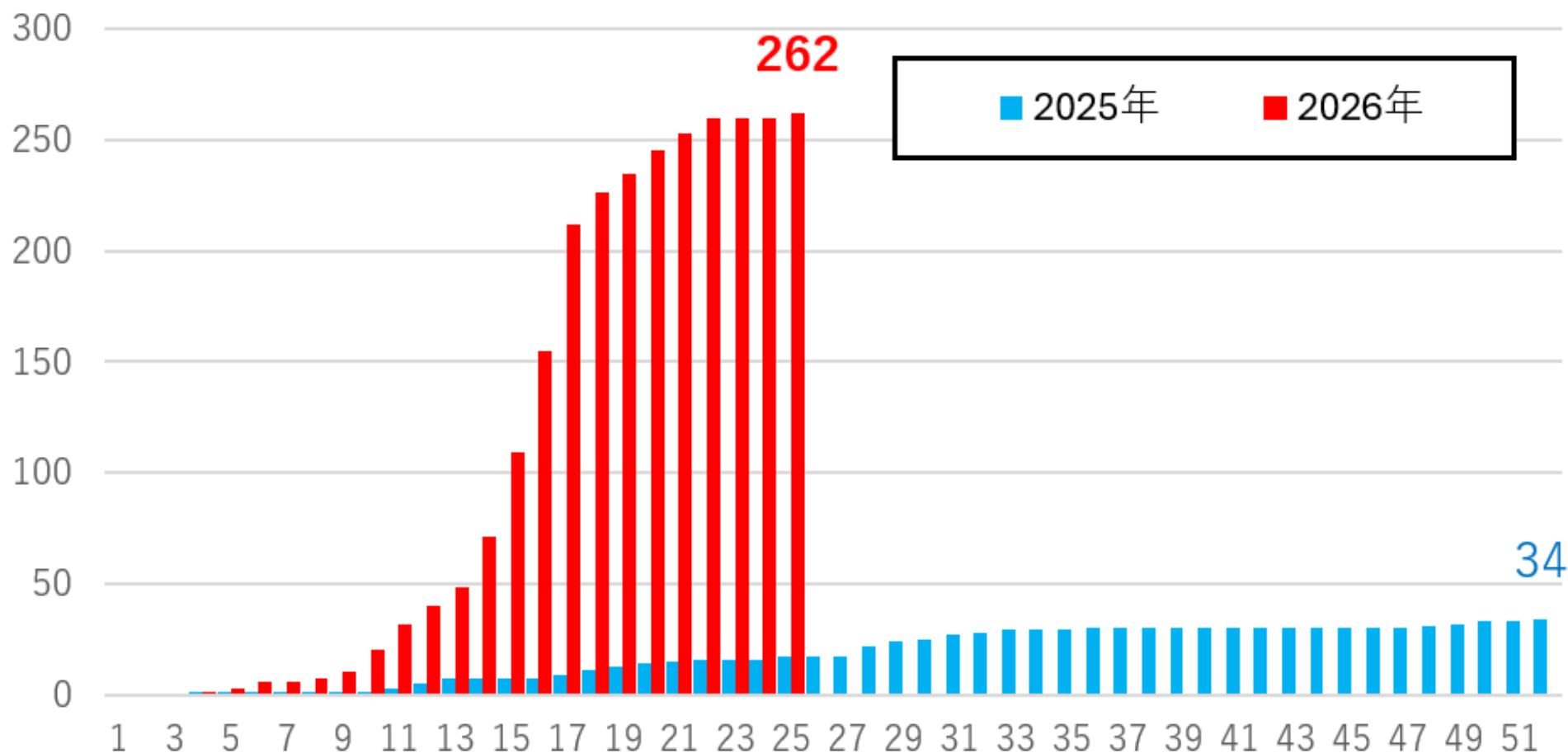


- ✓ インドネシアでは2025年後半から麻疹疑い例が増加しており2026年においても週当たり数千人の疑い例が報告されている
- ✓ アメリカにおいては2026年第1週より報告数が急増していたが、その後減少傾向となっている
- ✓ 両国ともに日本への旅行者が多く、今後も動向に注意が必要

Indonesia
<https://surveilans.kemkes.go.id/berita/latihan-masguji-pada-asir-parkim-penyakit-masguji-pada-pusat-pemeriksaan-wabah-m2-2026>
CDC HP
<https://www.cdc.gov/measles/data-research/index.html>
JNTO HP
<https://statistics.jnto.go.jp/graph/>

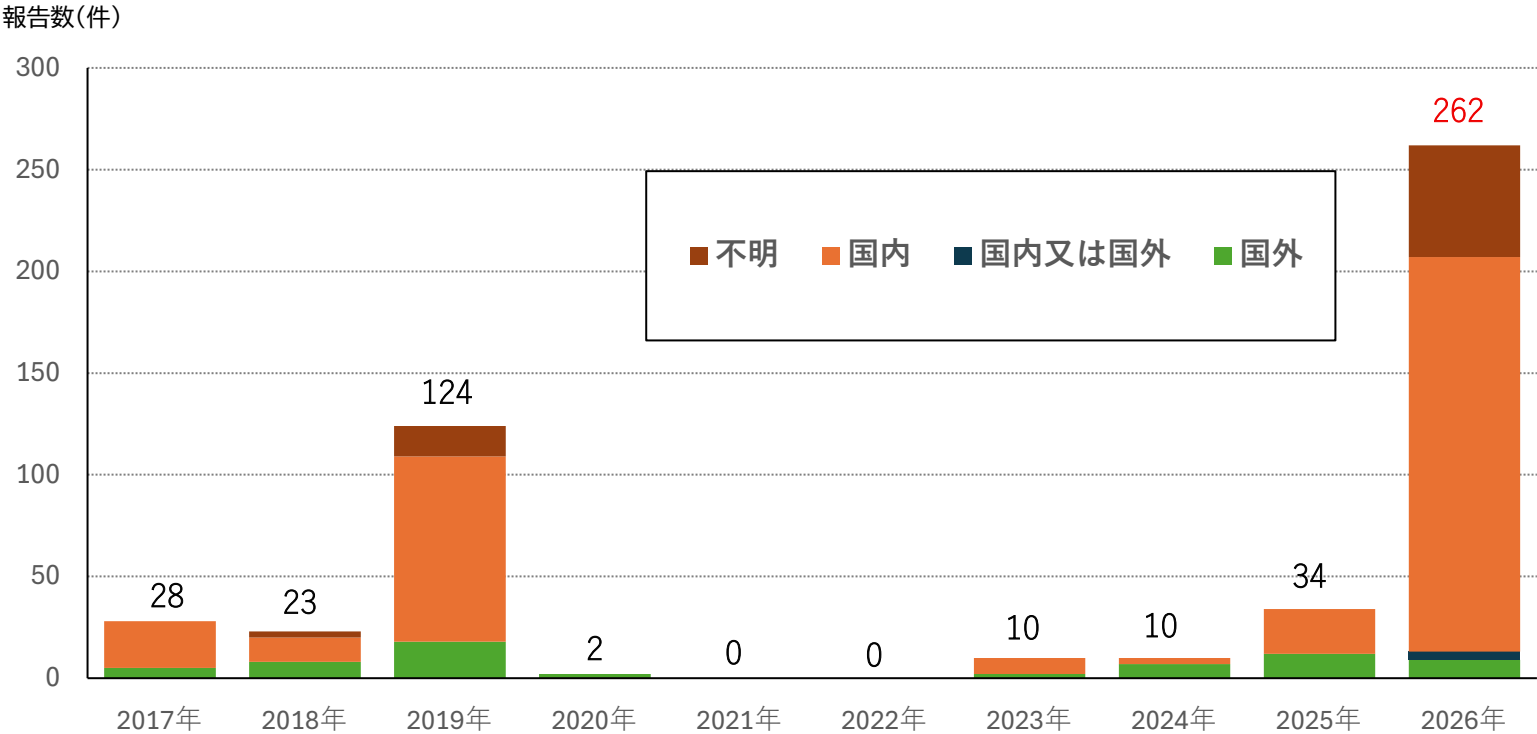
【東京都における麻しん患者の発生件数】

(週ごとの累積患者報告数、令和8年6月21日時点確定値)



※縦軸は件数(単位は(件))、横軸は週数(単位は(週))

【都内における麻しんの年別報告数推移（過去10年）】

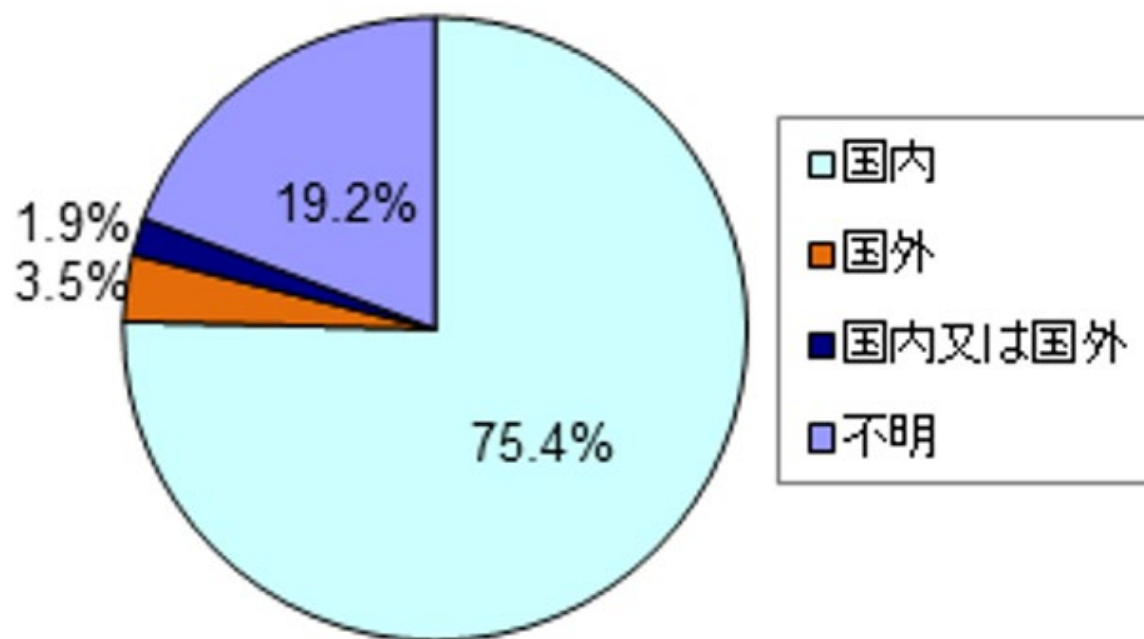


	2023年	2024年	2025年	2026年
東京都	10	10	34	262
全国	28	45	265	529

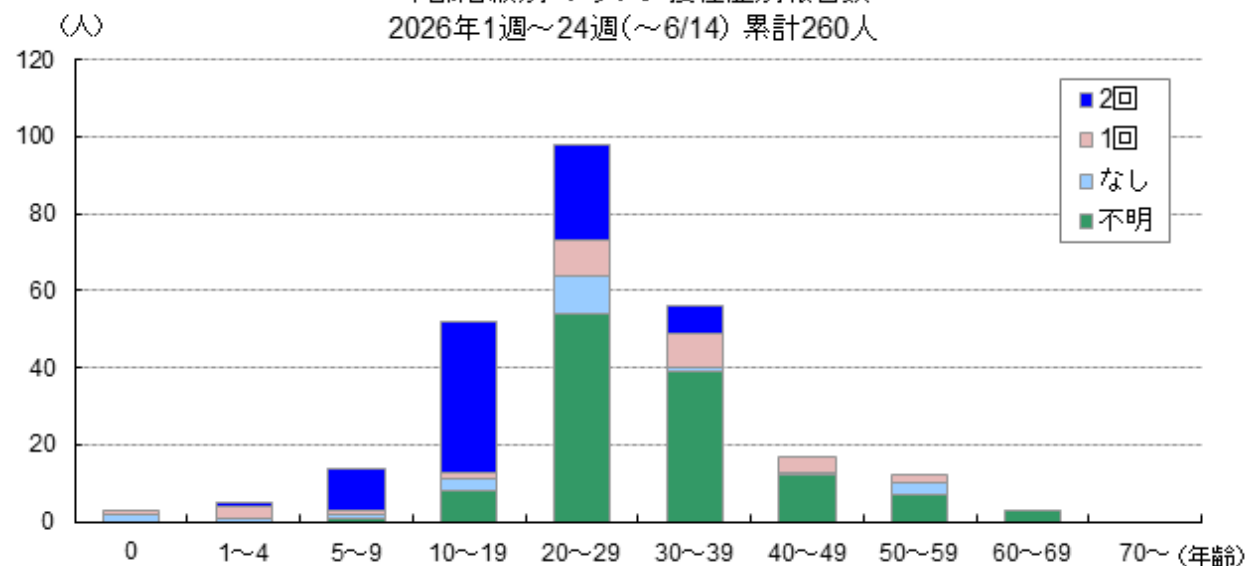
※全国の2026年は第24週（2026年6月8日～6月14日）までの累積速報値
※都の2026年は第25週（2026年6月15日～6月21日）までの累積値（確定値）

【都内における麻疹患者の推定感染地】

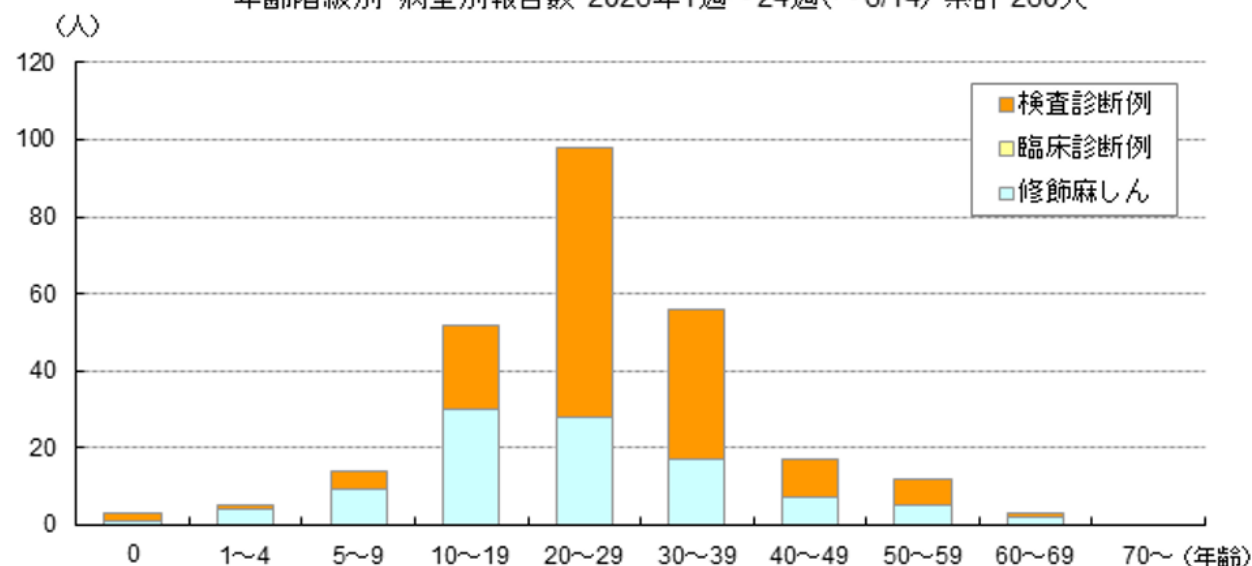
推定感染地域
2026年1週～24週(～6/14) 累計 260人



年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数
2026年1週～24週(～6/14) 累計260人



年齢階級別・病型別報告数 2026年1週～24週(～6/14) 累計 260人



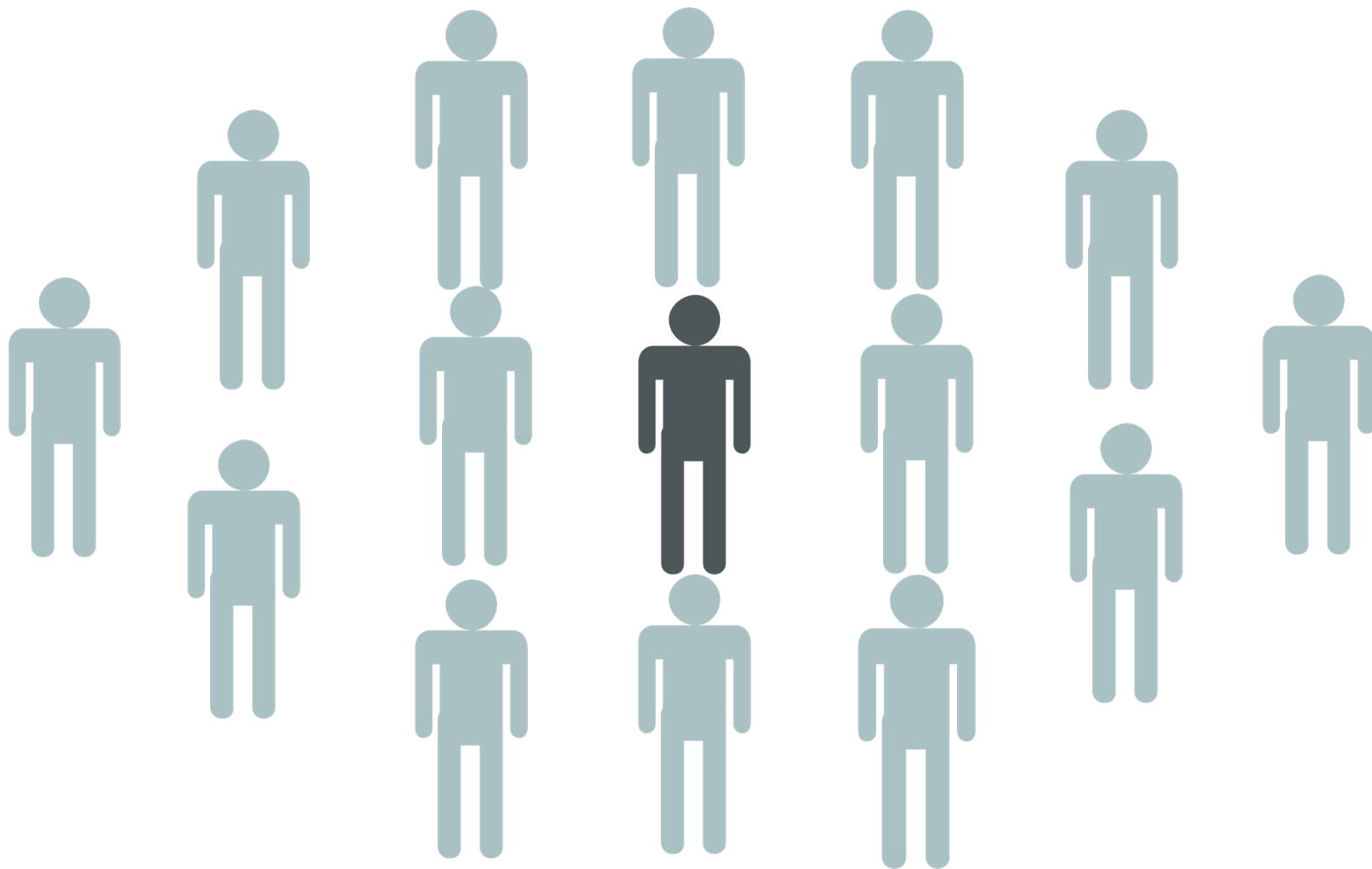
R0

基本再生産数
(Basic reproduction number)

- $R0 < 1$** → 感染が収束していく
- $R0 = 1$** → 感染数が維持される
- $R0 > 1$** → 感染が拡大していく

麻疹（はしか）

$R_0=15(12\sim18)$



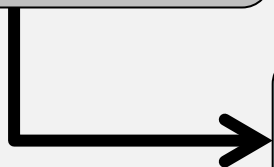
麻疹の臨床経過

潜伏期

カタル期

発疹期

回復期



【潜伏期】

潜伏期間は **10～14日**

95～100%が顕性感染

【カタル期】

発症5日くらいまで

風邪症状(鼻汁、くしゃみ、咽頭痛、咳)

発熱は低めで下熱(二峰性の発熱)

後半に「**Koplik**斑」が出現

感染力が最も強い



【発疹期】

二峰性の発熱、結膜充血

発疹は、耳後や頬部から出現

顔面→体幹→四肢

小さな紅斑は**融合**し拡大していく





潜伏期

カタル期

発疹期

回復期

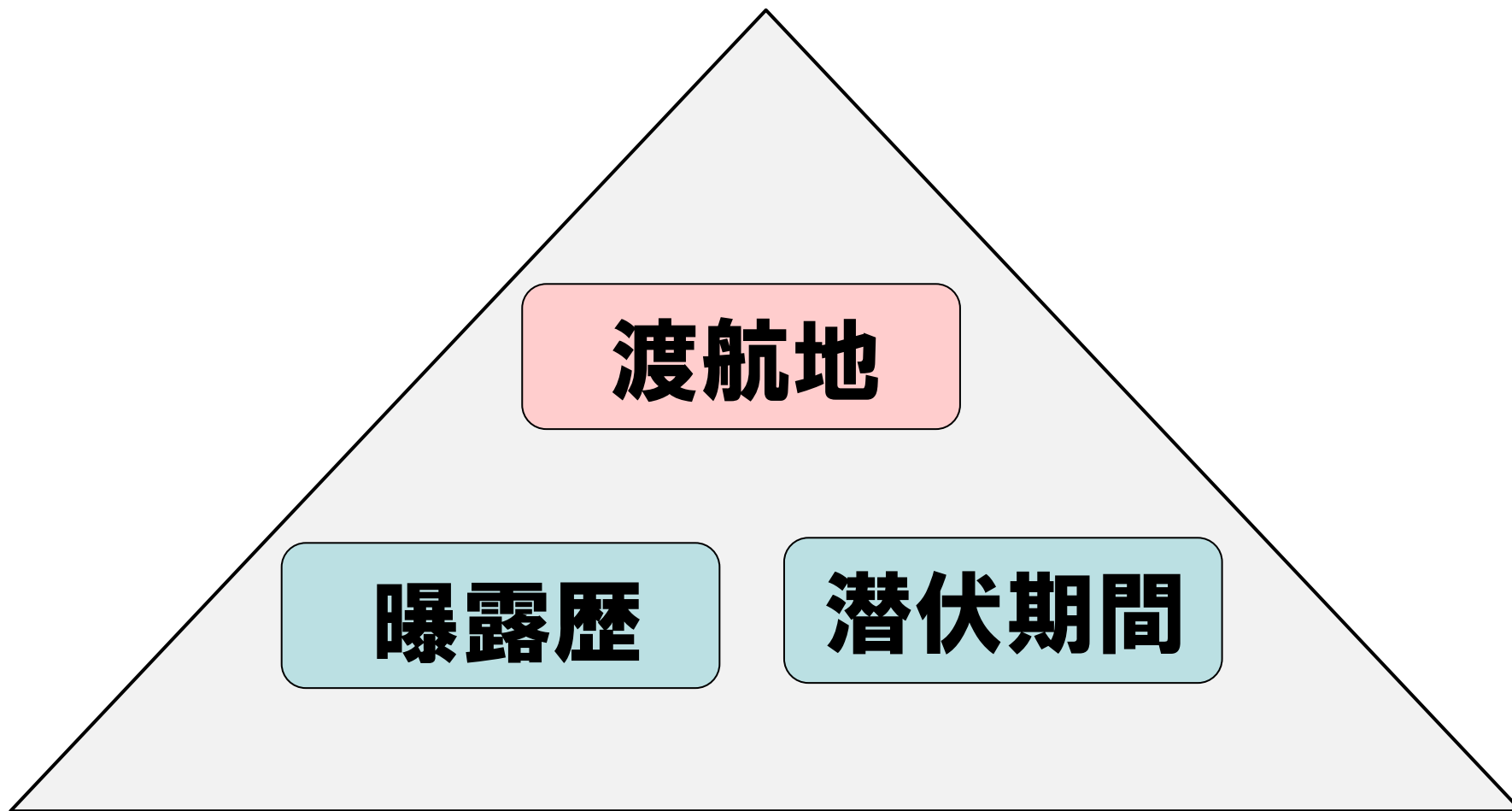
発熱(二峰性)

風邪症状

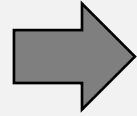
発疹→融合拡大→色素沈着・落屑



渡航歴の丁寧な聴取がポイント

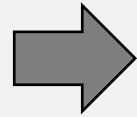


渡航地



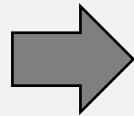
どこにいたのか？
どんな環境で生活したのか？

曝露歴



何を飲んで、何を食べたのか？
蚊などの昆虫との接触は？
ネズミなどの動物との接触は？
水の中には入ったか？

潜伏期間



最後にリスクがあったのはいつか？
いつまで発症する可能性があるのか？

輸入感染症における問診のポイント

【渡航国・渡航期間】

どこの国に、いつからいつまで渡航していたか

【感染機会】

現地の環境、行動、飲食歴、
昆虫や動物との接触、水との接触など

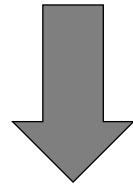
【症状の確認】

主症状、随伴症状、出現時期、経過

【予防・治療の有無】

予防注射、現地での予防薬、これまでの治療

**その国の、どの地域で、何を食べ、
どんな環境で過ごしたのか？**



イメージを明確に！

狂犬病

【潜伏期間】 2～3ヶ月 （1週～1年以上）

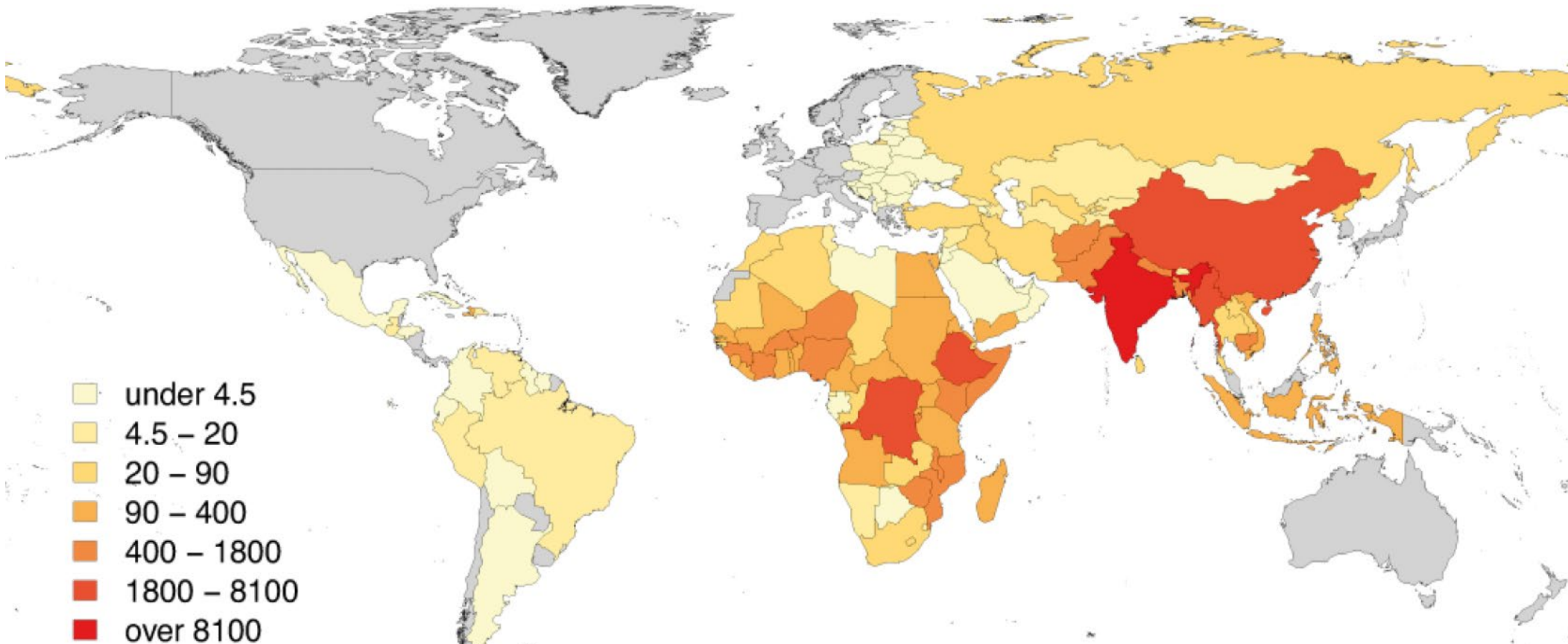
* 汚染部位から中枢神経までの距離やウイルス量で異なる

発症するとほぼ**100%死亡**



ワクチンによる曝露前予防・曝露後予防が重要

狂犬病による推定死亡者数(人)



世界では現在も**毎年約7万人**が狂犬病によって命を落としている

CDC. Global Rabies

<https://www.cdc.gov/rabies/around-world/index.html>

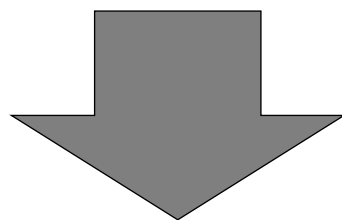
狂犬病の原因となるイヌ以外の動物種の分布



コウモリ、キツネ、ジャッカル、マングース、スカンクなどの野生動物も
狂犬病ウイルスを媒介している

海外における**入院歴**の聴取

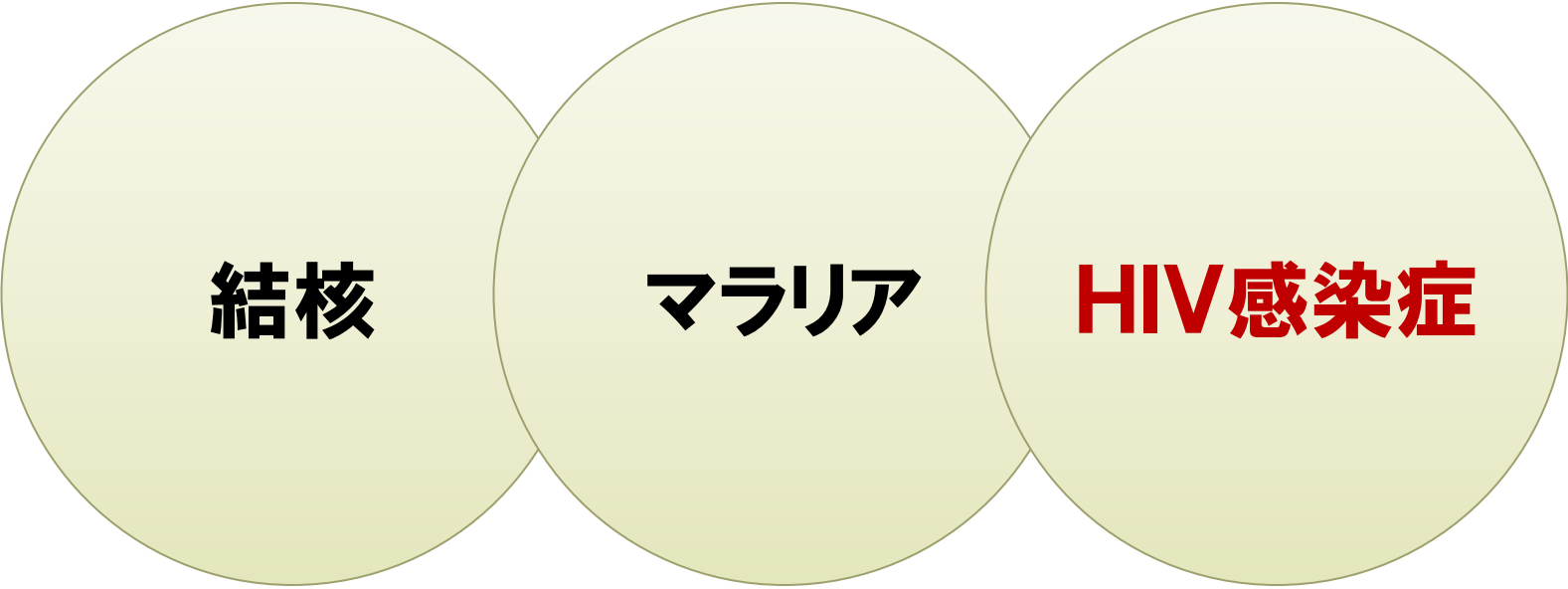
＊特に帰国後に入院が必要となった場合に重要



日本では発生頻度の低い
薬剤耐性菌を保菌している可能性

**曝露歴の聴取において、
性行動歴は必要か？**

世界の三大感染症



結核

マラリア

HIV感染症

急性HIV感染における代表的な所見

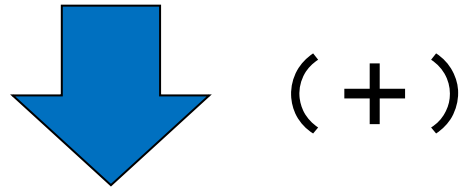
症状出現は40～90%

典型例は2～6週に出現、1～2週以内に自然軽快

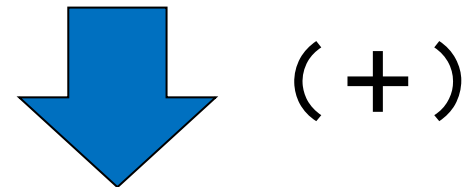
発熱	96%
リンパ節腫脹	74%
咽頭炎	70%
発疹、口腔や性器の粘膜潰瘍	70%
筋肉痛あるいは関節痛	54%
下痢	32%
頭痛	32%

HIV感染症の診断は、 2つのステップで検査する

① スクリーニング検査



② 確認検査



HIV !!

感染



スクリーニング検査

－

＋

＋

＋

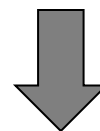
確認検査

－

－

±

＋



偽陽性との鑑別を！

渡航後の観察における、 **潜伏期間**の重要性

感染

発症



潜伏期間

感染性のある期間



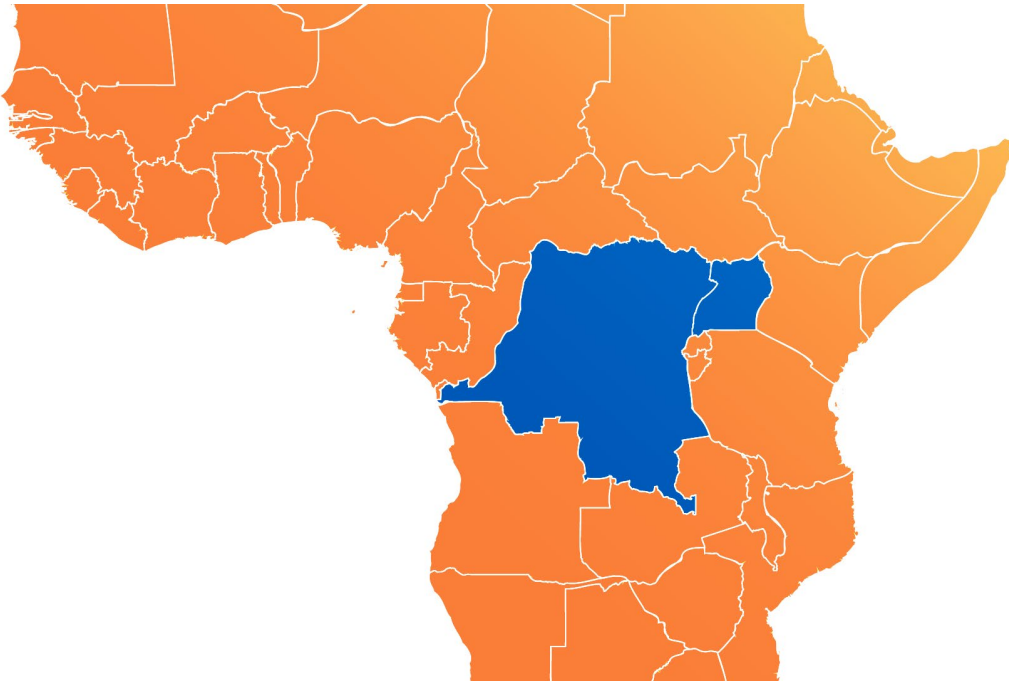
曝露後の観察

隔離期間

【エボラ出血熱の流行】

2026年、コンゴ、ウガンダで流行中
2026年5月17日に PHEIC*宣言

*PHEIC: Public Health Emergency of International Concern
「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」



CDC: Ebola Outbreak: Current Situation
<https://www.cdc.gov/ebola/situation-summary/index.html>

Reported*	Count
DRC (As of June 25, 2026)	
Confirmed cases	1203
Confirmed deaths	321
Probable cases	NA
Probable deaths	NA
Uganda (As of June 26, 2026)	
Confirmed cases	20
Confirmed deaths	2
Probable cases	1
Probable deaths	1
France (As of June 24, 2026)	
Confirmed cases	1
Confirmed deaths	0
Probable cases	0
Probable deaths	0
Totals	
Confirmed cases	1224
Confirmed deaths	323
Probable cases	1
Probable deaths	1

2014年、西アフリカ(ギニア、リベリア、シエラレオネ)の流行でPHEIC宣言あり

エボラ出血熱

エボラウイルス病(Ebola virus disease : EVD)

【ヒトに感染する4種類の株】

(ザイール、スーダン、タイフォレスト、ブンディブギョ)

【感染経路】 **接触感染** (血液、吐物、排泄物、分泌物など)

【潜伏期間】 2～**21日** (通常4～10日)

【症状】 <初期症状> 発熱、倦怠感、筋肉痛、頭痛など
<約5日以降> 嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状
<重症例> 腎不全、肝不全、出血症状

【治療】 輸液、輸血、透析などの支持療法

【ワクチン】 Ervevo * ザイール株に有効

渡航後に起こってくる、
代表的な**症状**をチェック！

低・中所得国への海外渡航者では、**43～79%**が渡航中または帰国後に何らかの健康問題を経験していた。

Steffen R., et al. Travel epidemiology—a global perspective.
International Journal of Antimicrobial Agents. 2015.

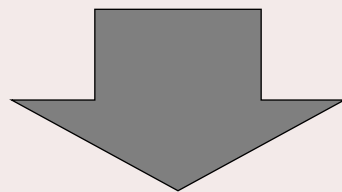
米国の研究では、旅行関連の健康問題は**64%**に生じ、そのうち**60%**は帰国後に発症していた。

滞在期間が1日伸びるごとに罹患率は**3%**ずつ増加し、30日以上滞在する渡航者は罹患率が**80%**であった。

David R. Hill. Health Problems in a Large Cohort of Americans Traveling to Developing Countries.
J Travel Med 2000; 7:259–266.

渡航者の多くが何らかの症状を経験している

渡航後の代表的な症状



発熱、下痢、発疹

+呼吸器症状など

輸入感染としての 発熱

発熱で受診する代表的な輸入感染症

デング熱

マラリア

腸チフス/パラチフス

リケッチア症

A型肝炎

その他、リケッチア、レプトスピラ、麻疹、旅行者下痢症など

渡航後の代表的な発熱疾患と潜伏期間

デング熱 3～7日 (最大2～14日)

マラリア 1～4週

腸チフス 7～14日

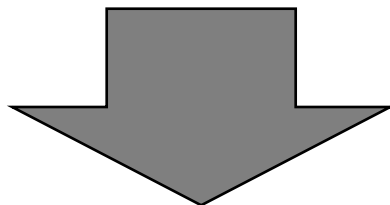
リケッチア 5～14日

A型肝炎 2～7週 (平均4週)

渡航後の代表的な発熱疾患と検査値

	WBC	Plt	AST/ALT		
デング熱	↓	↓	↑		
マラリア	→	↓	↑		
腸チフス	→	→	↑	↑	
リケッチア	→	→ ↓	↑	↑	
A型肝炎	→	→ ↓	↑	↑	↑

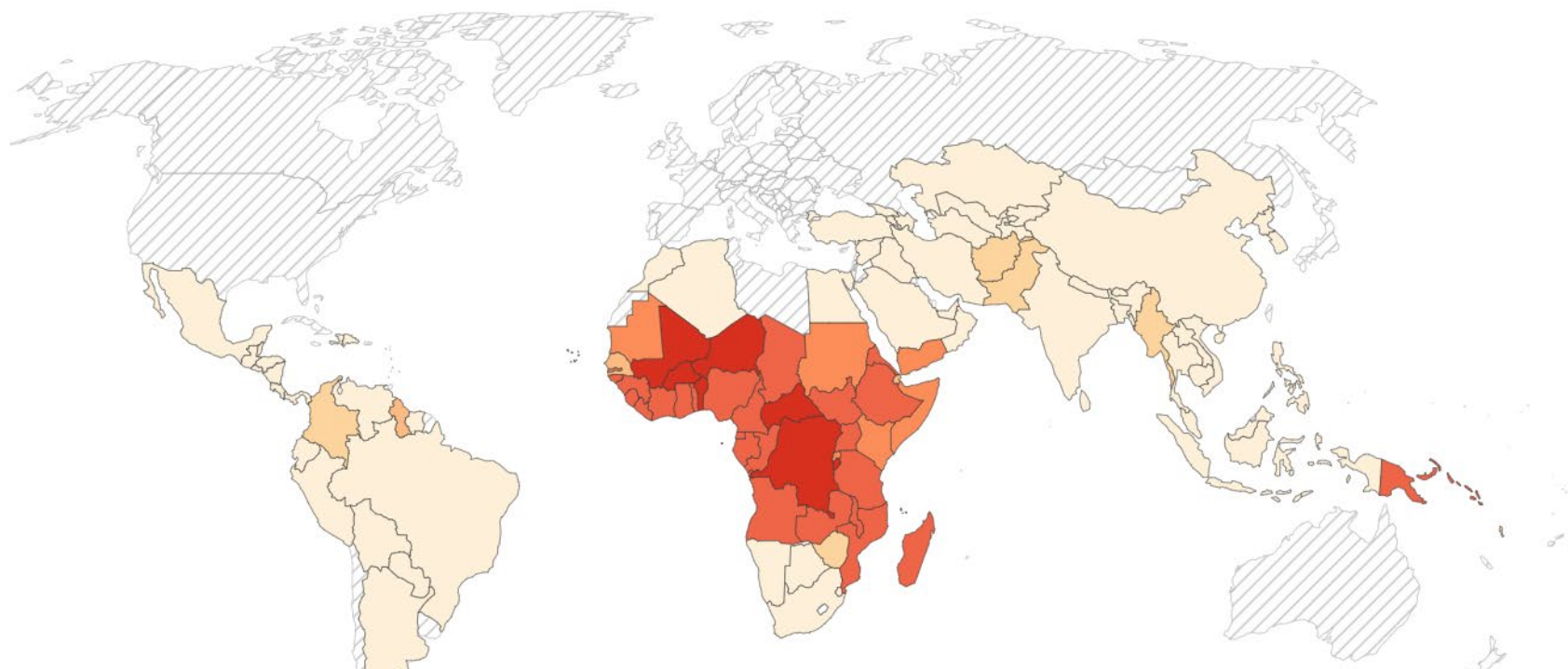
**海外に行っていたとしても、
輸入感染症とは限らない**



**一般感染症や非感染症も
鑑別疾患から外さない**

マラリアの流行地域

New cases of malaria per 1,000 people at risk, 2024

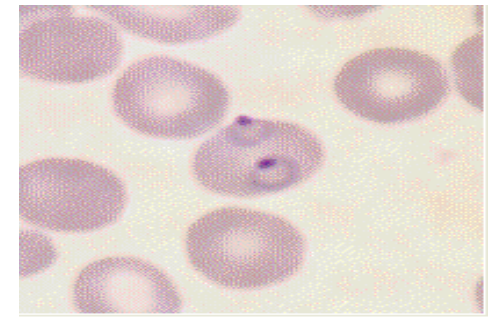


世界の感染者数 **2億8200万人**、死亡者数 **61万人**
(2024年)

WHO. World malaria report 2025

<https://www.who.int/teams/global-malaria-programme/reports/world-malaria-report-2025>

マラリア



＊蚊による媒介(ハマダラカ)

＊**熱帯熱、三日熱、四日熱、卵型マラリア**

- ・熱帯熱は致死的疾患
- ・三日熱(48hr)、四日熱(72hr)の発熱周期
治っても休眠状態に残ることあり

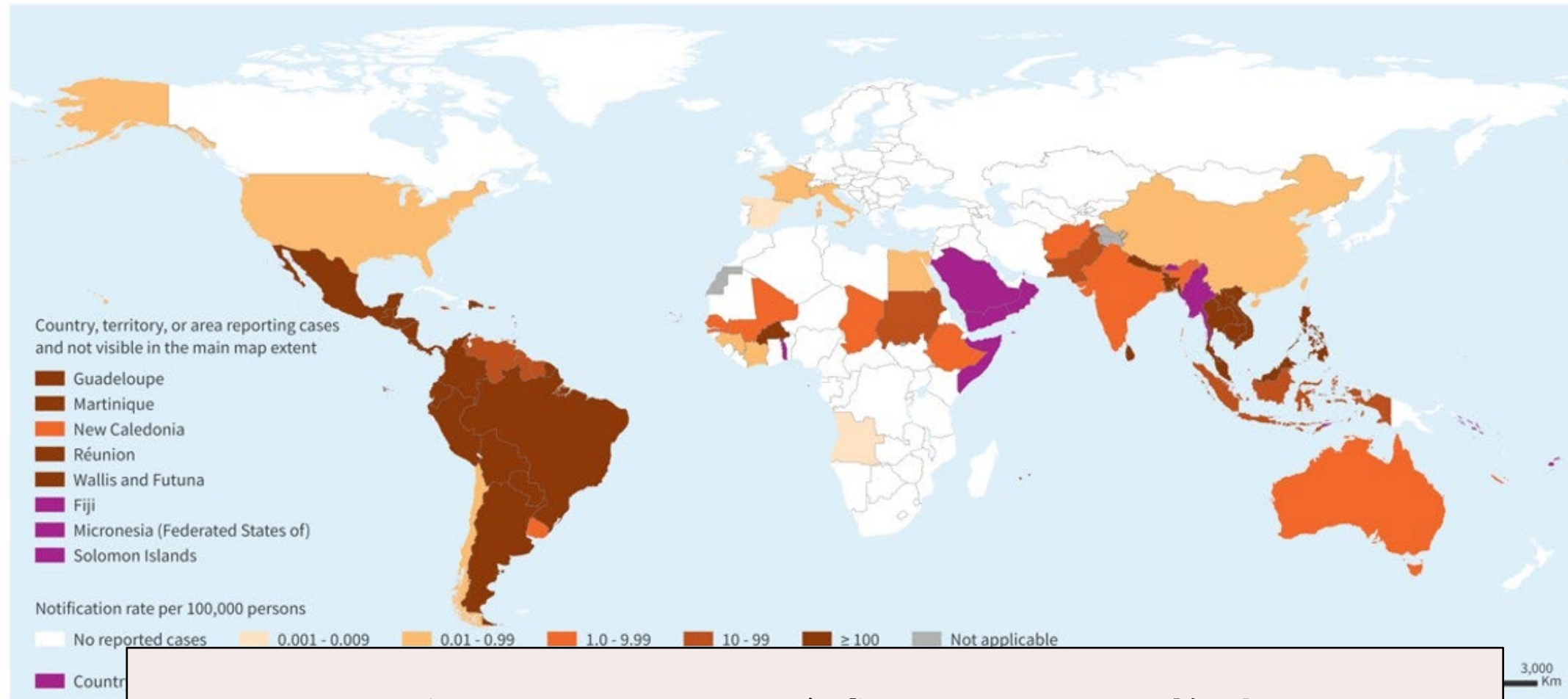
＜診断＞ 血液の塗抹標本の検鏡による原虫検出
迅速検査キットあり

＜治療・予防＞ 抗マラリア薬による治療・予防

デング熱の報告地域

Countries/territories/areas reporting autochthonous dengue cases
(November 2022– November 2023)

* 地域の報告率や症例定義の違いあり

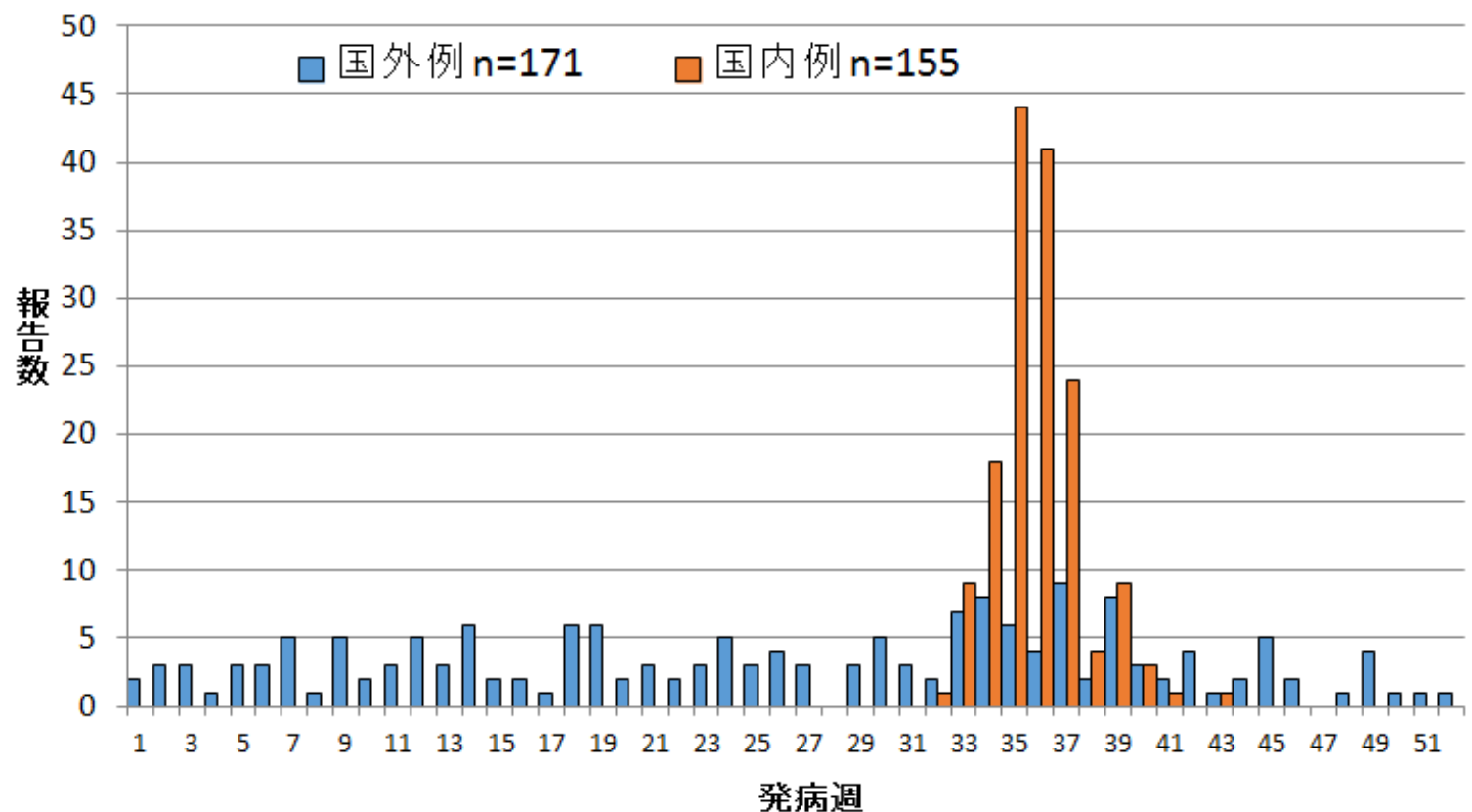


世界で毎年**1～4億人**が感染していると推定

WHO. Fact Sheet_Dengue

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dengue-and-severe-dengue>

【代々木公園で発生した国内事例（2014年）】



(感染症発生動向調査より)

1. 感染地別診断週別報告数(2014年第1～52週、n=326*)

*2014年第1～52週に診断され報告された340例の発症日に基づく。
発症日不明の計14例を除いた

デング熱

- * 蚊による媒介（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）
- * **市中での感染**、温暖化による流行地拡大
- * 発熱、頭痛、発疹などの症状
稀に**重症型デング**となる（出血傾向、臓器不全）

＜診断＞ 迅速検査キット（NS1抗原、IgM・IgG抗体）
核酸増幅検査（PCR）

＜治療＞ 対症療法



蚊をなくして安全・安心!



蚊の用心

デング熱などの
原因となる
蚊の発生を防止
しましょう。

蚊の忌避剤

DEET

含有濃度 5～30%

子どもに使いにくい

生後6か月未満は使用不可、年齢により濃度や回数の制限あり

イカリジン

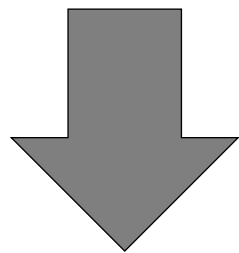
含有濃度 5～15%

子どもにも使用可能

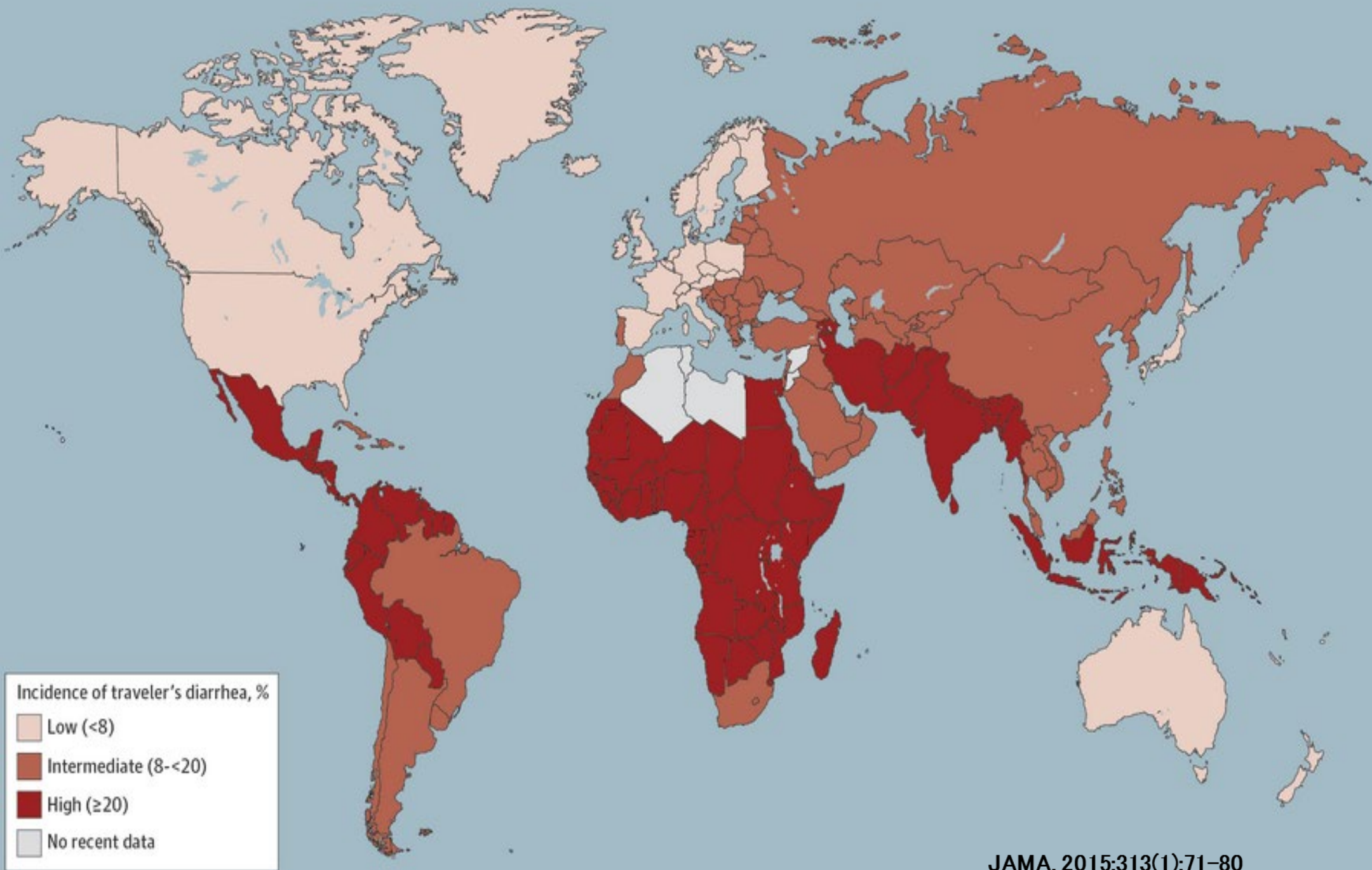
ツツガムシやトコジラミにも有効

***イカリジン5%は DEET10%と同等の効果**

旅行者**下痢**症

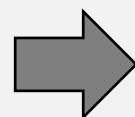


「**途上国**」に多い感染症



下痢の持続期間と原因微生物

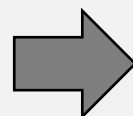
急性下痢症



毒素原性大腸菌
カンピロバクター
サルモネラ
コレラなど

慢性下痢症

(14日以上続く下痢)



ランブル鞭毛虫
クリプトスポリジウム
アメーバなど

腸管毒素原性大腸菌 (ETEC) ➡

Organism	Estimated Incidence* (%)
Bacteria (40-80% of cases)	
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	5-70
Enteroaggregative <i>E coli</i>	0-40
<i>Salmonella</i> species	0-15
<i>Shigella</i>	0-15
<i>Campylobacter</i>	0-30
<i>Aeromonas</i>	0-10
<i>Plesiomonas</i>	0-5
Viruses (0-20% of cases)	
Rotavirus	0-20
Enteroviruses	0-20
Protozoa (0-5% of cases)	
<i>Giardia lamblia</i>	0-5
<i>Entamoeba histolytica</i>	0-5
<i>Cryptococcus</i>	0-5
Unknown	10-40

下痢原性大腸菌の種類

腸管毒素原性大腸菌 (enterotoxigenic Escherichia.coli: ETEC)

腸管病原性大腸菌 (enteropathogenic E.coli: EPEC)

腸管出血性大腸菌 (enterohemorrhagic E.coli: EHEC)

腸管侵入性大腸菌 (enteroinvasive E.coli:EIEC)

腸管凝集性大腸菌 (enteroaggregative E.coli:EAEC or EAggEC)

Identification of specific enteropathogens in studies of the etiology of TD carried out in Latin America/Caribbean, Africa, and Southern Asia, 1973–2004

Pathogen	L. America and Caribbean				Africa				South Asia				Southeast Asia				P value*
	No. studies	No. subjects	No. positive	Percent	No. studies	No. subjects	No. positive	Percent	No. studies	No. subjects	No. positive	Percent	No. studies	No. subjects	No. positive	Percent	
ETEC	26	3,302	1109	33.6	10	1,217	380	31.2	2	499	153	30.6	7	500	36	7.2	< 0.001
EAEC	6	689	166	24.1	2	165	3	1.8	1	206	33	16.0	NA	NA	NA	NA	< 0.001
EPEC	1	91	13	14.3	3	350	27	7.7	NA	NA	NA	NA	1	100	18	18.0	0.007
EIEC	1	112	3	2.7	4	463	6	1.3	NA	NA	NA	NA	2	97	1	1.03	0.546
EHEC	NA	NA	NA	NA	2	218	1	0.5	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
DAEC	2	193	12	6.2	1	47	0	0	1	206	6	2.91	1	25	0	0	0.151
Campy	15	2,031	51	2.5	7	1,177	54	4.6	2	499	39	7.82	7	500	162	32.4	< 0.001
Shigella	24	3,302	218	6.6	10	1,217	104	8.6	2	499	40	8.02	8	646	14	2.17	< 0.001
Salmonella	21	2,537	111	4.4	10	1,217	67	5.5	2	499	33	6.61	8	646	59	9.13	< 0.001
Aeromonas	12	2,135	16	0.8	5	946	30	3.2	2	499	14	2.81	3	245	8	3.27	< 0.001
Plesiomonas	9	1,601	21	1.3	4	756	19	2.5	2	499	27	5.41	2	209	10	4.78	< 0.001
Total Vibrios	7	1,048	1	0.1	4	656	15	2.3	2	499	17	3.41	5	541	50	9.24	< 0.001
Non-cholera Vibrios	7	1,048	1	0.1	4	656	15	2.3	2	499	15	3.01	5	541	49	9.06	< 0.001
V. cholera	7	1,380	0	0	3	524	0	0	2	499	2	0.4	5	541	1	0.18	0.048
Rotavirus	6	584	42	7.2	5	913	61	6.7	1	293	15	5.12	4	288	11	3.82	0.192
Norovirus	1	124	21	16.9	1	47	6	12.8	NA	NA	NA	NA	2	126	4	3.17	0.002
Giardia	13	1,750	23	1.3	6	1,006	16	1.6	2	499	31	6.21	4	316	18	5.7	< 0.001
Crypto	9	1,007	20	2.0	4	311	4	1.3	2	499	14	2.81	4	316	2	0.63	0.130
E. histolytica	11	1,293	14	1.1	3	728	7	1.0	2	499	19	3.81	4	325	8	2.46	< 0.001
No pathogen identified	20	2,130	NA	48.8	6	1,316	NA	44.7	2	499	NA	39.0	5	509	NA	50.2	< 0.001

* Comparisons of the different rates of identification of the specific pathogen between various geographic regions.

ETEC = enterotoxigenic *E. coli*; EAEC = enteroaggregative *E. coli*; EPEC = enteropathogenic *E. coli*; EIEC = enteroinvasive *E. coli*; EHEC = enterohemorrhagic *E. coli*; DAEC = diffusely adherent *E. coli*; Campy = *Campylobacter*; Crypto = *Cryptosporidium*; NA = organism was not sought in the studies.

海外渡航後の発疹

皮疹の出現する感染症

デング熱

ジカウイルス感染症

チクングニア熱

リケツチア症

エムポックス など...

そして...麻疹/風疹

渡航後の**呼吸器症状**

マーズ
MERS

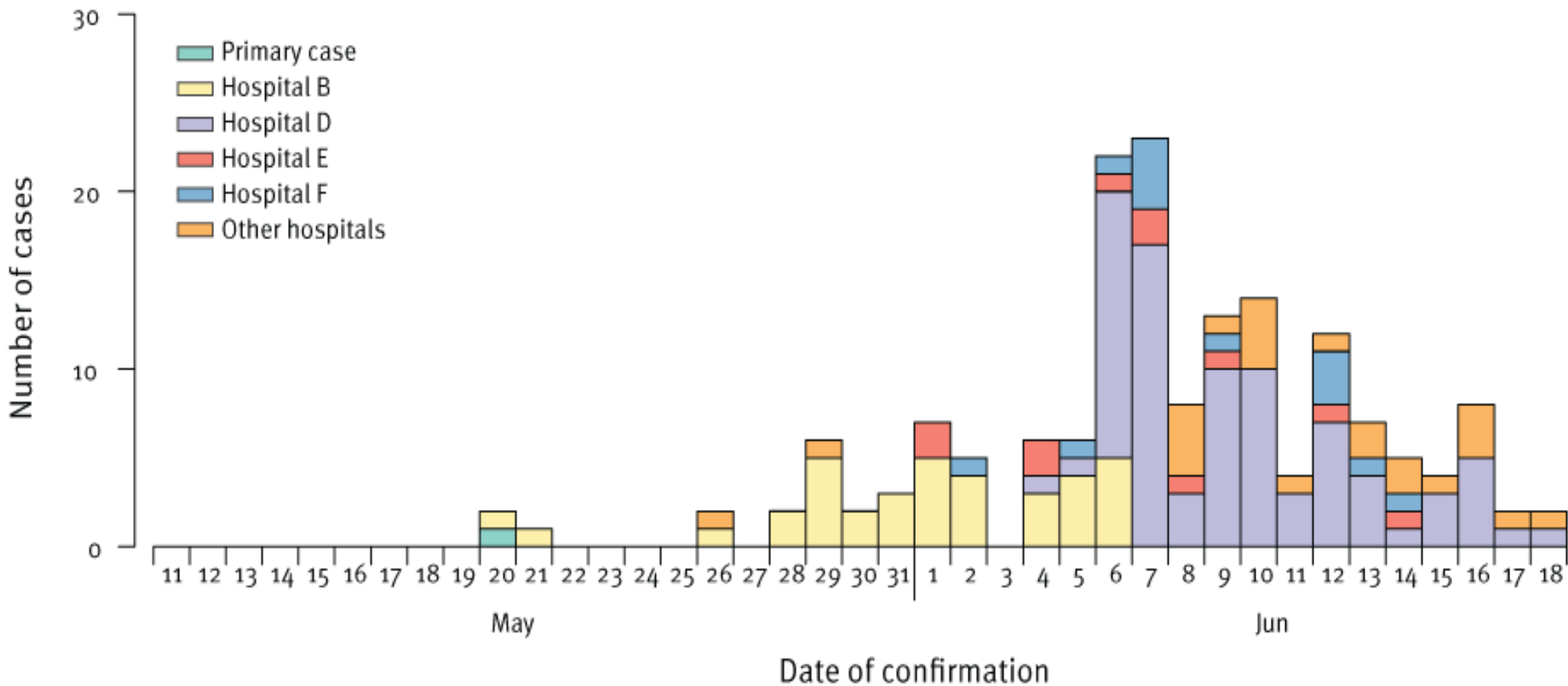
中東呼吸器症候群

Middle **E**ast **R**espiratory **S**yndrome

感染源：ヒトコブラクダ

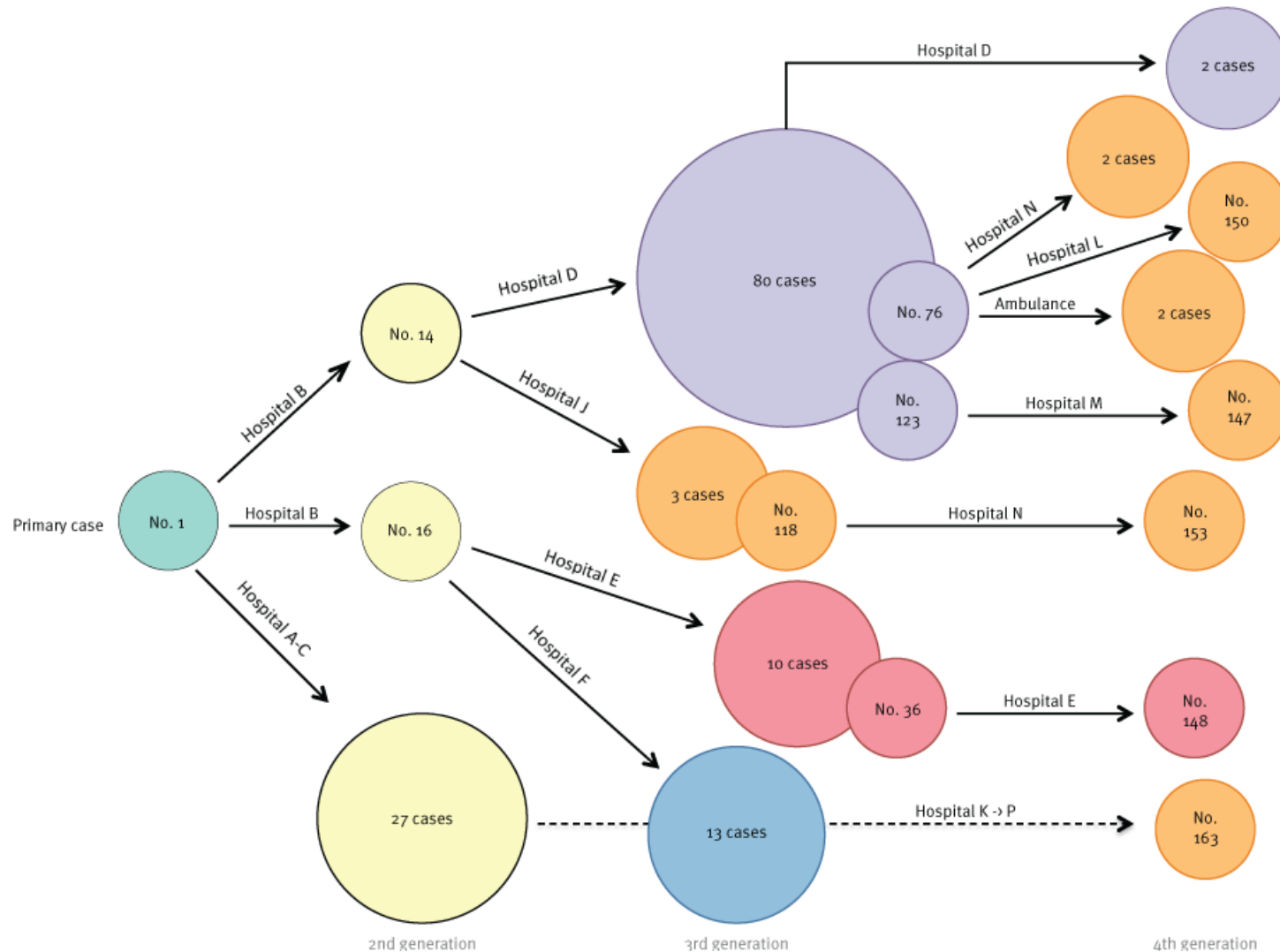
唾液や糞尿、未殺菌の乳、未加熱の肉などを介して感染

2015年、韓国におけるMERSの流行



Simplified transmission diagram illustrating the superspreading events associated with Cases 1, 14, 16 and fourth-generation infections of MERS-CoV, South Korea, 11 May–19 June 2015 (n = 166)

2015年、韓国におけるMERSの流行



Simplified transmission diagram illustrating the superspreading events associated with Cases 1, 14, 16 and fourth-generation infections of MERS-CoV, South Korea, 11 May–19 June 2015 (n = 166)

Home

症状からアプローチする
インバウンド感染症への対応

国際的マスギャザリングに
関連したワクチン

薬剤耐性菌

インバウンド感染症
の感染対策

取り上げた感染症（五十音順）

01. アフリカ紅斑熱
02. アメーバ性肝膿瘍
03. E型肝炎
04. インフルエンザ（季節性）
05. ウイルス性出血熱
06. ウイルス性脳炎
07. ウエストナイル熱
08. A型肝炎
09. エムボックス
10. 黄熱
11. オロブーシェ熱
12. カンジダ・アウリス
13. 感染性心内膜炎
14. カンピロバクター腸炎
15. Q熱（*Coxiella burnetii* 感染症）
16. 急性HIV感染症
17. 狂犬病
18. クリプトスポリジウム症

症状からアプローチする

インバウンド感染症への対応 感染症クイック・リファレンス 2025



改訂版にあたって

1. はじめに

2. 症状からアプローチするインバウンド感染症への対応

3. 薬剤耐性菌

4. 国際的マスギャザリングに関連したワクチン

5. インバウンド感染症の感染対策

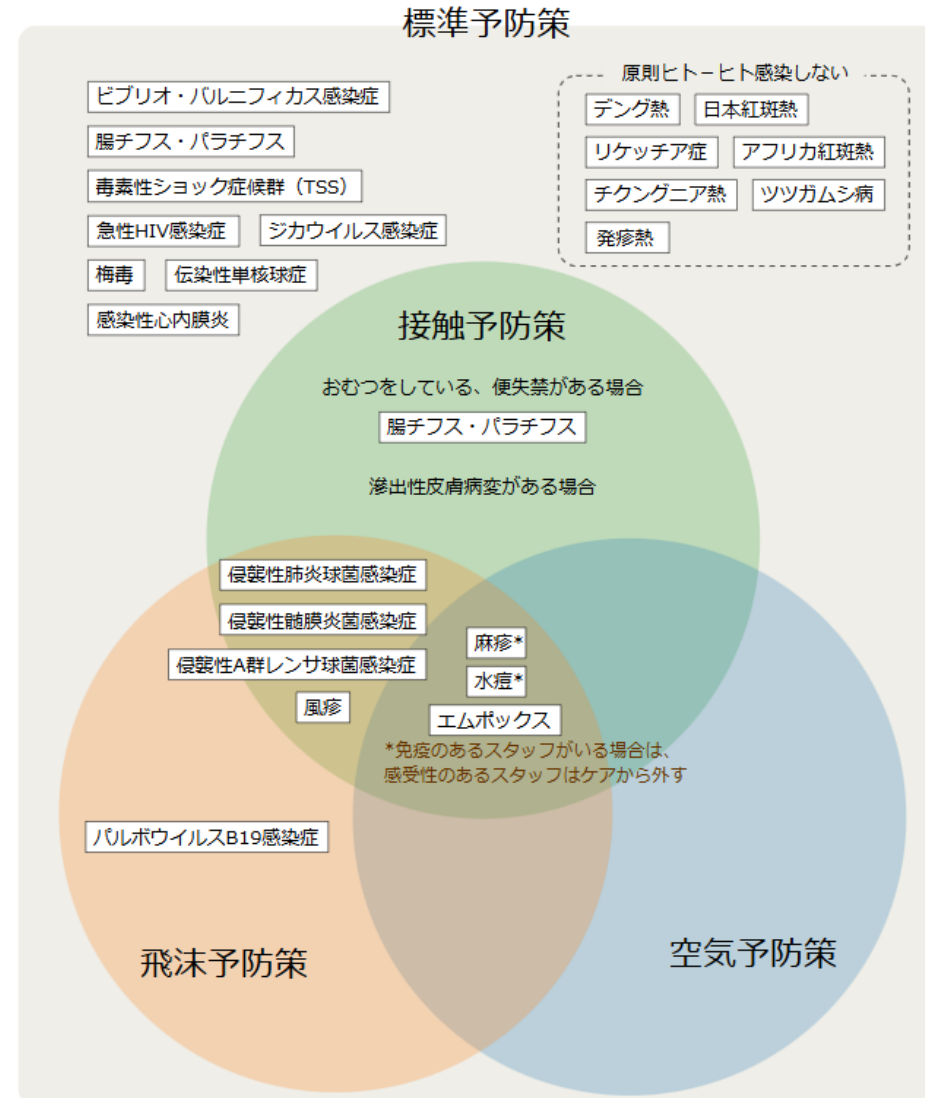
6. 取り上げた感染症（各論）

7. 略語

【感染予防策】発熱＋呼吸器症状



【感染予防策】発熱＋皮疹

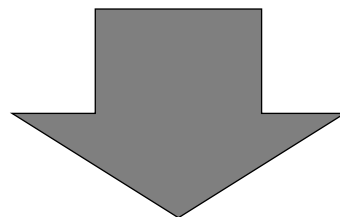


夏のインフルエンザ

日本の夏は**南半球**の冬

東南アジアでは年間を通じて発生

診断後に忘れないように！

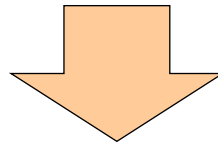


- ・感染症法の**発生届**
- ・**保健所**への連絡

マスギャザリング

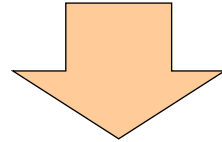
(Mass-gathering)

共通した目的で、1000人以上の人が、
同一時間、同一地域に集まる



公衆衛生上の大きなリスク

多数の国々から人が集まる マスギャザリング



- ・ 流行の地域差がある感染症
- ・ その国には存在しない感染症
- ・ 国によって免疫状態の異なる感染症

2015年、世界スカウトジャンボリー(山口県)

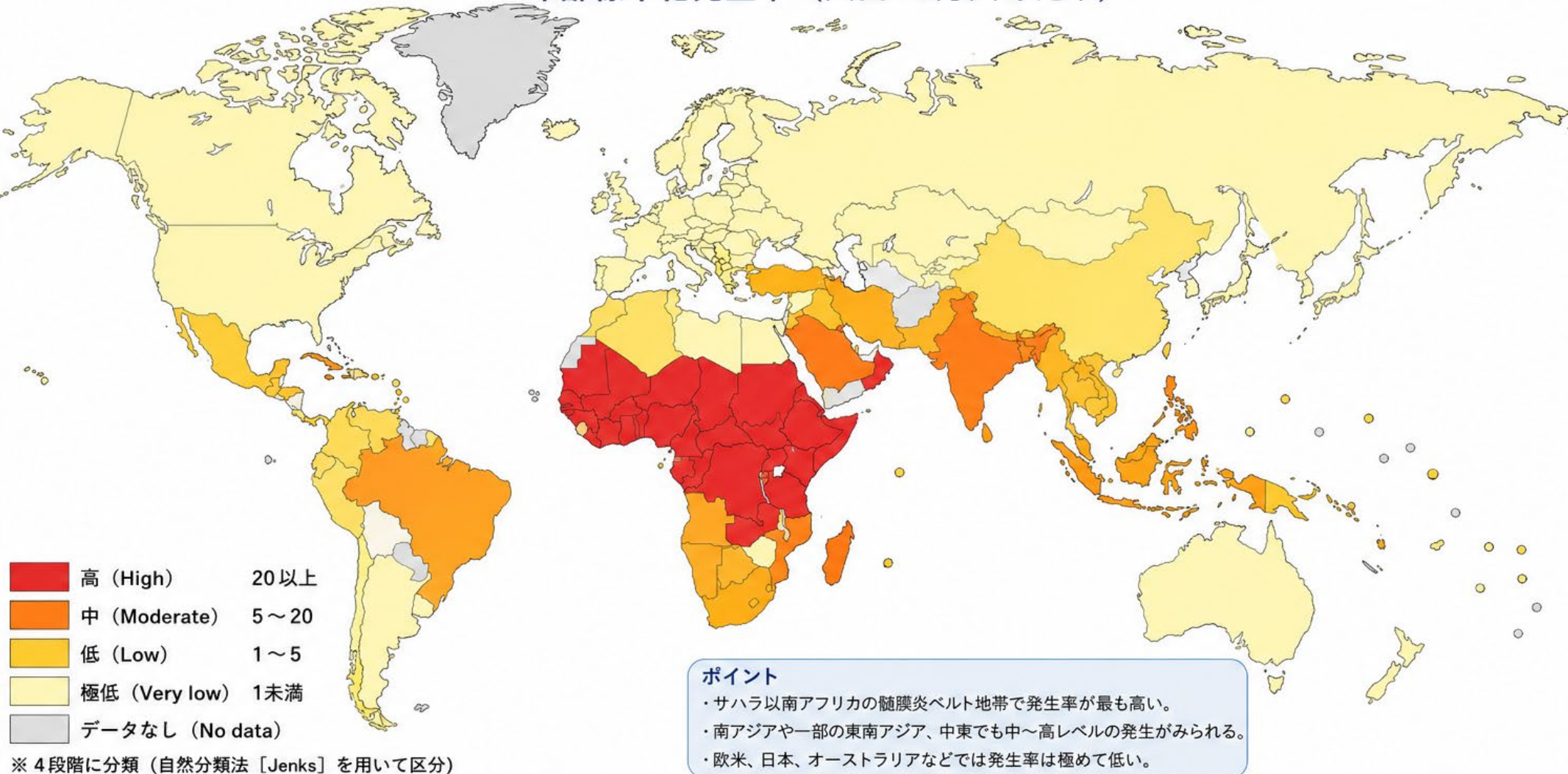
北スコットランド隊3名とスウェーデン隊1名が、
髄膜炎菌感染症を発症



参加各国への連絡
濃厚接触者に抗菌薬の予防投与が行われた

世界における髄膜炎菌感染症の発生状況（2023年）

年齢標準化発生率（人口10万人あたり）

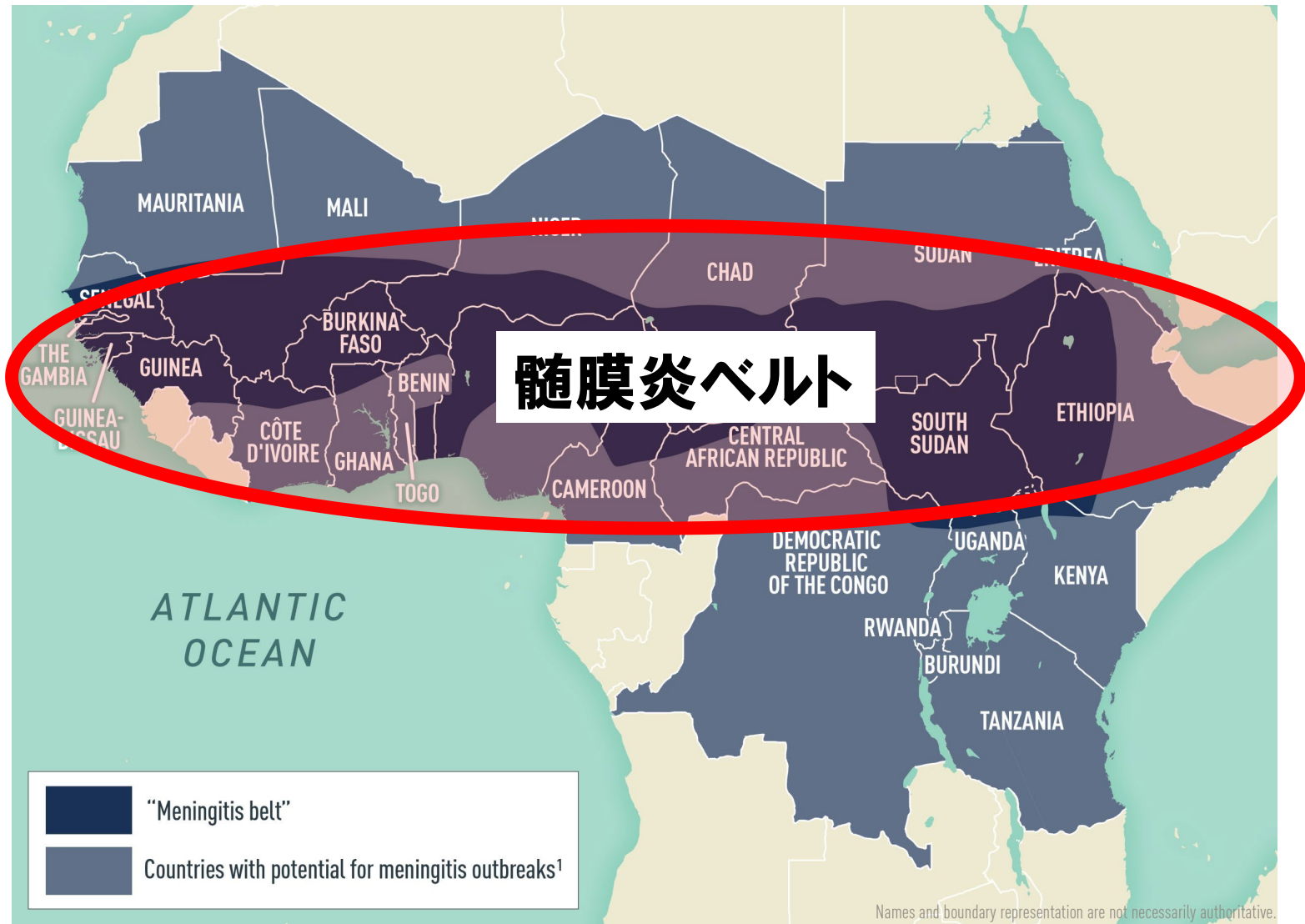


Source: Institute for Health Metrics and Evaluation (IHME). Global Burden of Disease Results Tool (GBD 2023).

Invasive meningococcal disease (meningitis) – Incidence, Age-standardized rate (per 100,000 population), Both sexes, All ages.

Available at: <https://vizhub.healthdata.org/gbd-results/> (accessed July 2026)

髄膜炎菌感染症のリスクが高いアフリカの地域



CDC Yellow Book. Meningococcal Disease

<https://www.cdc.gov/yellow-book/hcp/travel-associated-infections-diseases/meningococcal-disease.html>

事前に受けておきたいワクチン

疾患名	一般市民	医療関係者	イベント関係者
麻疹	+++	+++	+++
風疹	+++	+++	+++
髄膜炎菌	—	++	++
A型肝炎	—	+	++
B型肝炎	—	+++	—
水痘	+	+	+
流行性耳下腺炎	+	+	+
インフルエンザ*	+	++	++
新型コロナウイルス感染症	+	++	++

+++ 全員に強く推奨（定期接種が未完了もしくは不明のものを含む）、

++ 感染のリスクが高いと考えられる人に推奨、

+ 接種が好ましい、

— 平時と同様の対応

*インフルエンザワクチンの接種に関しては、イベント開催1年前のシーズンの接種を指す

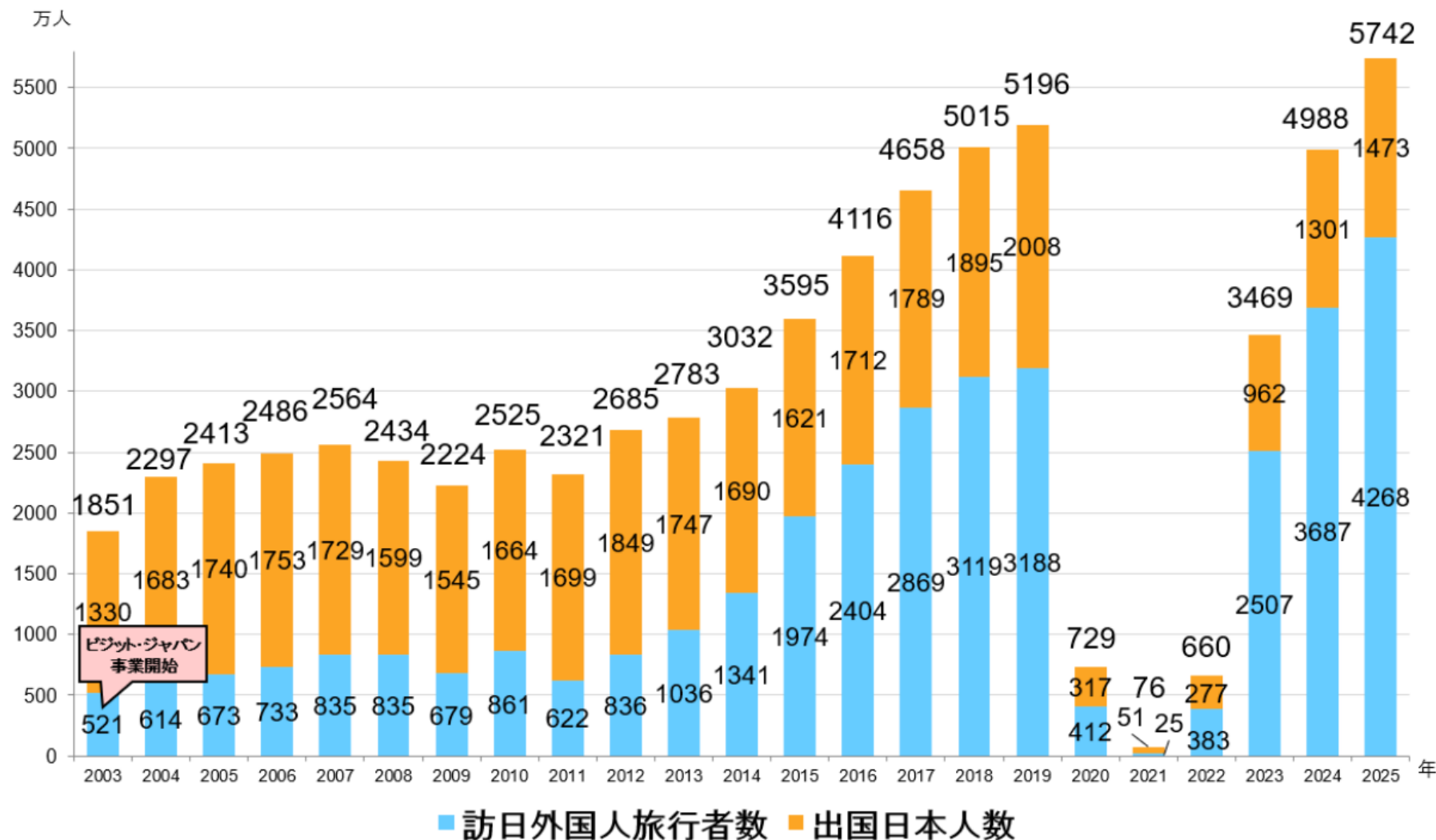
イベント関係者とはイベント会場に出入りする人（業者、メディア関係者、アルバイトなど）を指す

マスギャザリングが問題となる大規模イベント

2026年6～7月	FIFA ワールドカップ	米国・カナダ・メキシコ
9月	第20回アジア競技大会	名古屋市
10月	第5回アジアパラ競技大会	名古屋市
2027年3～9月	2027年国際園芸博覧会	横浜市
5月	ワールドマスタースゲームズ	関西広域
5～8月	Expo 2027 Belgrade	セルビア・ベオグラード
6～7月	FIFA 女子ワールドカップ	ブラジル
9～10月	ラグビーワールドカップ	オーストラリア



訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



出典：日本政府観光局(JNTO)訪日外客統計、出入国在留管理庁 出入国管理統計

気候変動 → 病原体と接触する区域の拡大

途上国の経済発展 → 宿主との接触機会の増加

グローバル化 → 感染拡大のスピードが加速



感染症リスクの上昇に備えることが必要！